

技術士だより

—(株)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 春季号<第11号>(平成4年3月15日発行)

◇巻頭言

地球環境の保全を図り

人類の未来に光を!!

矢野 友厚 (福岡・建設、センター副会長)

十二支干を越えた長い昭和の時代から平成へ早や4年、中東湾岸戦争を皮切りに、69年の歴史の幕を閉じたソ連邦の消滅と引換えに、11の共和国を母体とした独立国家共同体が発足しましたが、これとて大海の中で迷う難破船のように、一体どこに漂着するのか判らない状況で、国際社会の激動が続いています。

これら情勢に対応して、日本は何をなすべきか、国内の要請としては内需の振興と真に豊かさを実現できる生活大国造り、国際的には安全保障体制の再構築、南北両半球の経済的格差解消への寄与、世界的な環境汚染問題への取組みに対する積極的指導等、重荷を担う行動が要請されています。

一方、恐るべき予測として、近年の世界人口の爆発的増加に伴う食糧不足・資源の乱費、ひいては人類の滅亡の時期はさ程遠くないとさえいわれています。

私共技術士会は発足40年の輝かしい年輪を過ぎるに当たり、これらの状況を巨視して、世界的プロジェクトにも参画しながら、少ない資源の使用で最大の効果を挙げ、更にその廃棄物の再利用で次の構築を考えることに改めて目を向ける時代がやってきたと思います。

例えば雲仙や桜島のカス抜き大規模地熱発電等の可能性検討、無尽蔵の海水から廉価で水素エネルギーを採取する技術の研究、夏場に海洋の熱エネルギーを吸収して発達する台風の持つエネルギーの略奪利用、または台風の初期に小経費で消滅させ人類の資産保全を図る方法の研究等テーマは限りないと思います。

“消費は美德”のキャッチフレーズに酔って、限りある資源の乱費を続けたらどうなるか。端的な例では、電車は寿命が長くスクラップになっても分解再利用の資源に富む優等生であるが、自動車の方は足元にも及ばない劣等生と評価されています。

一方、恐るべきは公害。クリーニング屋で使用している特殊洗剤や、先端技術に組み込まれているICの生産に使われる特殊洗浄液が地下水に混入した場合、恐るべき毒性を発揮するといわれ、文明の進歩と滅亡が背中合わせに存在している現状であります。

したがって、今後の諸生産活動に当たり、省資源、再利用の場合の付加価値等を原点におき、地球資源の永続保持と環境保全に鋭意努めねばならない。

このような時に当たり、九州技術士会の中で特に上記のことに深い見識を有する北九州地区の技術士会では、複合化プロジェクトチームを組んで ①県の工業試験場 ②北九州市 ③国の融合化事業 ④加速度的技術開発等の援助事業 等に積極的に取り組んでおられ、その関係者各位の地味で一方エネルギーなど活躍に対し深く敬意を表し、益々のご発展をお祈り申し上げます。

更に、熊本、鹿児島、宮崎、大分の各地で次々に産学官のエキスパートを網羅した合同セミナーが当該地区技術士会のご尽力で開催され、会の存在価値を各界にPRされた。

更にまた、技術士有志で形成するCEクラブでは、ドイツとのテクノ技術提携にかかる国際的な進出に成功、また、当支部の未来を担う青春の群像の諸士が“「YCE福岡」”を結成され、1月18日、大海への船出を飾られたことは誠に大慶の至りであります。

かように、九州技術士会は益々力を合わせ、限りなく前進を続けましょう。

1 人でも多くの入会をお勧め下さい

私の提言 Y C E 福岡の設立に寄せて

棚田 修一 (福岡・建設)

1. YCE福岡 設立の背景

本会の発起人の一人として、設立背景にふれたいと思います。現在、日本技術士会九州支部及び九州地方技術士センターの主催する総会、研修会等への参加者を見ますと若い人達の姿が比較的少ないように見受けられ、同世代の人達とのコミュニケーションがあまりできないことが少し物足りない気がしています。そのことが、会としての活気にやや欠けることにつながっているのではないかと感じています。

それから、若い技術士の多くが企業内技術士もしくは独立技術士としてそれぞれが“個人”の枠の中だけの活動に止まっていて、会員相互のつながりがあまりできていないことは残念な気がします。

このような点を少しでも解消していけるような場が今求められているのではないかと思います。そういう意味も含めて、若い技術士の集まりの場や組織としてYCE福岡が設立されました。これを機に個々の技術士、技術士会及びセンターの活性化につながれば望ましいと考えております。

2. YCE福岡 設立の意義

本会の会員資格者の名簿を見ますと50名を越しており、これらの方々は企業内技術士、独立技術士として活躍されております。これだけの若い技術士の方々が一同に会し、交流を深め、横のネットワークを形成していくことは意義深いことと思われま

す。これからは、情報が価値をもち、豊かな時間、空間の創出が大きな魅力となると言われております。会への参加、活動による専門の異なる多くの方々と、異業種交流、技術交流、人間交流等と多様な交流を通じて豊かな時間、空間を自ら作り出していくことは大切なことだと思います。そのことにより、いろいろなものの見方、考え方を吸収し、何かの“きっかけ”をつかめることができるのではないかと思います。

このような積極的な姿勢で本会への参加に、

転換していき、活動を続けていけば、以下のような現状に対する足りなさはかなり解消できていくのではないかと考えております。

- ①技術士であり、技術士会員やセンター会員であるという名称の表示のみで止まっていることの物足りなさ。
- ②同世代の技術士の集まりが比較的少ないことに対する物足りなさ。
- ③技術士会と社会との関わりが明確に把握できないため、参加の付加価値があまり感じられない物足りなさ。
- ④技術士の意義、役割等が現実の社会生活とのかかわりの中で明確に把握できない物足りなさ。

3. YCE福岡の将来目標

本会の設立によりいろんな分野の技術士の方が一同に集える“部屋づくり”できましたので、今後は会での多様な交流を通じ、お互いの相互理解を深めながら“仲間づくり”をすすめ、その中で培われた技術やネットワークの蓄積をもとに社会への提言や社会からの要請にこたえられる“組織づくり”へと発展していければ素晴らしいと思っております。

これからの時代は、“ニーズ”の時代から“ウォンツ”の時代に、つまり人は何を求めているのか、社会は何を求めているのかを敏感にしかも的確に受け止めていく事が必要になってくると思われま

す。それに対応できる知的集団としてYCE福岡を会員の皆さんと共に目指していき、“仕事は忙しいけど出席してみようか”という気にさせてくれる魅力ある会を作っていきたいと思っております。

将来的には、九州全域や他地域の若い技術士の方々とネットワークづくりや、弁護士等の他の領域の方々と、業界ネットワークづくりへと広げていければと希望をふくらませ

ております。

(棚 ZEN環境設計)



日本技術士会近況

1. 平成4年度事業計画・収支予算(案)について

1月24日第5回理事会が東京技術士会会議室で開催された。審議事項に平成4年度事業計画・収支予算(案)が提案され審議された。

平成4年度は、我が国の技術士制度が発足してちょうど35周年に当る。日本技術士会は技術士制度の一層の発展に努めながら、設立50周年に向けて、飛躍の第一歩を踏み出す時である。として、このような背景認識のもとに、平成4年度の事業運営に当っては、その基本的かつ長期の方針を年来の

第一 会員の増強

第二 技術士の能力の向上

第三 技術士の業域の拡充強化

と定め、この基本方針の下に

第一 技術士制度の普及

第二 技術士業務の開拓

第三 技術士のパーソナルデータの整備

第四 会員技術士の本会活動への参加促進

を当面の主要課題として、前年度の成果を十分に活かしつつ、事業の総合的な遂行に積極的に取り組んでいくこととする。また、指定試験機関及び指定登録機関として事業の実施に当ることとする。以下一般事業・技術士等の試験及び登録についてその詳細説明は省略します。続いて、平成4年度収支予算書(案)の提案があり審議した。特に気がついたのが、平成4年度収入に新入会員を370人と見込んでいるが、反面、会費の収入においては、退会見込数111人で、名誉会員数250人と減収入を見込み、このままの数字では平成4年度の会員見込数は、平成4年3月31日会員見込数4,150人に差引増加9名を加えた4,159名で会費収入を計上しているが、これは案だと言えは致し方ないが、より一層の会員増強する方向に、平成4年度は進めなくてはならない。私は私なりの会員増強に関する提言を政策委員会に提出しているが、どう採択するか。いつに会員一人ひとりの会員増強の意識の高揚により決するものと思います。

2. 技術士試験、広島会場開設について

全国支部平等に試験場を開設すべきだと

お願いしていたことが、平成4年度から、広島会場でも実施されることになり、中・四国地方の受験者は便利になり喜ばしい。福岡・大阪会場は当分の間受験者の数が減少するでしょう。

3. 合同セミナー補助費について

平成4年度予算(案)支出の部、普及啓発費に合同セミナー開催補助費として85万円が注釈なしに計上されているので、これを質したところ、本部主催の地方回りの合同セミナーは、昨年で全国一巡したので終わりとするにせし、この予算計上した額の使途を、次回支部長会議で各支部長に相談すること、現在九州支部で毎年実施している、支部主催県単位地方公共職員との合同セミナーにもやと技術士会からの補助費がつくと思う。補助申請してから5年目です。何事も辛抱と努力かなと私はつくづく思います。私の要領も悪かったのかとも色々と考えますが、また、ある場合には、時には時節的解決することもあるものだと思います。

4. 「渉外委員会(仮称)」(常設委員会)設置提案について

この第5回理事会において各理事の論議的になった。その経過は、第3回理事会に堀泰明理事より提案主旨説明があり、審議した結論に至らず、現在の常設委員会の業務内容と重複するところが多いとの意見を開陳し本件に関連する委員会で検討し、次回理事会で再度審議することにしたが、次回第4回理事会は堀泰明理事の欠席により、事務局より本件について各常設委員会における検討結果の報告があった。設置に対し反対意見が多かったが、今後の具体的な活動内容、予算等に関する資料を整備してもらい、再度理事会で検討することになった。この委員会設置の本質は、従来技術士会として、手薄であったPR並びに外部との交渉・連絡等関係を強固にし、会の歩みを一歩でも二歩でも前進しようとする善い発想であることには間違いのないのですが、会も組織の上に成り立つことであれば、従来からの各常設委員会との関連をよく整合出来れば、私は設置に賛成するものだが本理事会において、〈次ページにつづく〉

＜本部近況 つづき＞ 堀理事の常設委員会にするのが何故いけないのかの議論に終始したのに、各理事の賛成・反対の応酬で意見が出尽くした。結局会長裁定で特別委員会とすることにして「渉外委員会」を設置することを決定した。余韻は残るにしても、堀理事以下提案者の発案は技術士会百年の大計を想うとき、委員長始め委員の方々の奮斗努力を期して待ち、私も会員の一人として大いに応援助力し、龍頭蛇尾に終わらせたくないものと思う。

5. 技術士会館建設の検討について

平成4年度支出案に、科学技術調査研究促進費30万円の中に上記会館建設の検討に10万円が記してある。この理事会において長友正治監事の発言があり、会館の建設を積極的に促進しては如何かとの提案があった。

従来、支部長会議においても、村川・前・中・四国支部長が、技術士会館を建設しようと提言したが、具体案が出ずに終わり、また平成3年度新規事業・予算について、応用理学部門から技術士会館（仮称）の新設として予算500万円要求したことなどあり、だんだん会員の中に会館を建設しようという考えの方が多いのも事実で、建設するなら、まず、会員の増強を併立し、会員への建設PRを漸次浸透させ、具体案を出し、建設財源をどう捻出するか賛否を問い決するのが常道ではなかろうか。会員皆さんの、会館建設のご意見をお聞かせ願う時機が近づいたのだろうか。

6. 定時総会開催日について

この理事会において、事務局より、例年の定時総会開催月を毎年5月にしていたのを、総会の開催準備が4月後半から5月中旬へと、その間、5月の大型連休が続くので、5月開催への総会準備が出来にくくなった故、6月に開催したいと提案説明があったので、理事会でこれを審議し承認した。

7. 会員数の報告について

事務局より平成3年12月31日現在の会員数を次の通り報告があった。

技術士会員	4,110名(増24名)
〃 準会員A	94名(±0名)
〃 〃 B	786名(増3名)
賛助会員	193社(増2社)

／なお、次回理事会は3月13日で、臨時総会は3月16日とすることを承認した。

以上、理事会審議事項抜粋報告とします。
(土居理事)

☆本部季刊誌「技術士時報」第11号、

九州支部特集号の発刊について

（株）日本技術士会本部は広報活動の一環として各支部の特集号を発刊しているが、「技術士時報」第11号（平成4年3月発行予定）を九州支部特集号として集中的にPRすることとなった。支部において検討協議の結果、下記の通り関係者の協力を得て編集し発刊することとした。

◎1 ページ、「国際交流と地域活性化」へ協力する技術士

- ・国際協力事業団 所長 笹野暉樹氏
- ・対話対応者 土居貞夫（衛生）、児玉久（応用理学）、柴田秀夫（機械、経営工学）

◎2・3 ページ、科学技術の発展を願う

— 技術士の活躍に期待 —

- ・元科学技術庁長官、（株）日本技術士会顧問、代議士（鹿児島一区）、技術士・建設、宮崎茂一先生。

◎4・5 ページ、「最近の技術相談から」

- ・町田貞徳（電気・電子）中小企業指導。
- ・宮本浩二（〃）韓国企業の技術指導
- ・柴田秀夫（機械、経営工学）加速的技術開発支援
- ・本村一雄（経営工学）中小企業の経営相談
- ・斎藤清美（衛生工学）環境、産廃問題

◎6・7 ページ、「活躍する技術士たち」

- ・水上信照（建設）・清崎義春（建設）日韓トンネル研究会の現況について
- ・笠木直行（建設）ドイツとの技術交流について
- ・原田 彰（建設）公共団体内における技術士の役割について

○予定発行部数 3,000部

○発行所 （株）日本技術士会（広報委員会）
(以上 水上副支部長)

＜（株）日本技術士会近況 おわり＞

技術士会九州支部・九州地方技術士センター 行事・会合などの報告

1. 第3回常任幹事会

日時：平成4年2月8日(土)13:00~16:00

場所：サンライフホテル

出席：支部長他13名

議事：

- (イ) 会員増強賛助会員及び広告の申込み状況について
- (ロ) 会費徴収状況と未納者の督促について
- (ハ) 平成4年度第二次試験説明会について
- (ニ) 中・四国支部との合同例会並びに機械経営工学会の共同開催について
- (ホ) 次期合同セミナー開催地について
- (ヘ) 第10回技術士研究業績発表について
- (ト) 韓国技術士の建設事情視察研修について
- (チ) 会員研修及び新合格者祝賀会開催について
- (リ) 平成4年度事業計画案について
- (ヌ) 各地区各委員会の現況と今後のスケジュールについて
- (ル) その他

報告事項：

- (イ) 本部理事会報告
- (ロ) 第2回支部長会議報告
- (ハ) 第4回九州地方公共団体職員と技術士の合同セミナー報告
- (ニ) その他

2. 新進技術士のための技術士実務研修会

日時：平成4年2月21日(金)13:00~17:00

場所：福岡商工会議所 604号

参加者：平成3年度合格者32名

講座内容：

- (1) 個人技術士としてやって行くには
どうすればよいか
企業内技術士の活躍の場と方向
13:00~14:30 講師 技術士 柴田秀夫
- (2) 地域における技術士の役割について
14:30~16:00 講師 技術士 青山次則
- (3) 生き甲斐を創出する技術士の役割
16:00~17:00 講師 技術士 斎藤清美

3. 技術士補実務研修会

日時：平成4年2月21日(金)13:00~17:00

場所：福岡商工会議所 B1

参加者：平成3年度合格者19名

／ 講座内容：

- (1) 技術士補から技術士へ向けて
新合格者及び未登録者の技術士補登録手続き、4年間の技術士補業務の意義、技術士第二次試験の仕組みと第二次試験最近の状況 講師 技術士 矢野友厚
- (2) 技術士になるための研修方法
技術士に不可欠な基本的能力の養成、第二次試験に合格するための研修方法
講師 技術士 町田貞徳
- (3) 質疑応答
指導技術士への要望(技術士補より)
技術士会への要望(技術士補より)
講師 技術士 久保田信一

4. 会員実務研修

会員の資質向上のための実務研修会を、去る2月21日(金)に実施したところ、会員多数の出席を得て盛会のうちに終了しました。講演要旨と講師はつぎのとおりです。

- (1) 技術士の国際交流 技術士 笠木 直行
国際化の時代を迎え、技術士の国際交流の機械は増大しております。

国際協力事業団(JICA)は、「国造り、人造り、心のふれあい」をキャッチフレーズに、開発途上国の人材養成を行っており、九州支部会員も多くの人がこの機関を通じて国内外で活躍しております。

また、プロジェクトチームCEクラブも、一昨年からドイツと交流を始めました。今ではオスナブリュック市、エッセン市、ノルトラインヴェンストファーレン州(州都デュッセルドルフ市)と交流の輪は広がっております。

- (2) 冷凍の今昔 河合製氷冷蔵㈱

会長 河合 豊昭

昔の冷却法は、天然の水を利用しておりました。氷の保存はオガクズを断熱材として使っております。

古くは日本書記にも記録がみられ、平安時代には酒を氷で冷やして飲んでいったといえます。

＜ 次ページにつづく ＞

＜支部・センター 行事報告 つづき＞

戦艦大和には、火薬の自然発火を防ぐ目的で、大きな冷蔵倉庫が設けられていたことは一般に知られていない話です。

家庭用電気冷蔵庫の普及で、食品の低温化・低温流通化はますます進んでおります。

冷凍の新しい技術として、超低温・凍結乾燥、CA冷蔵、高圧冷凍などがあり、身近な食品や医療に冷凍技術は深くかかわっております。

3. 海外技術指導の体験談

技術士 江崎 親教

学会主催による海外視察研修に積極的に参加体験することによって、技術士として大いに勉強になり人的つながりも生まれます。

韓国からは、新規事業を始めるに当たり、日本の技術指導を求めてきたもので、自動車組立てツールの量産工場のレイアウトに参加

しました。指導したことを毎日レポートに書かなければならず、深夜に及ぶことがしばしばで苦労しました。

現地の人々の開発意欲の旺盛なことに感心しました。

台湾では、高雄の工業団地にある企業の技術指導をしました。経営者は若い人が多く、品質管理、生産管理を日本から学び吸収しようという熱意は強く、感銘を受けました。

現地では、日本語が通じたので助かりましたが、これからは外国語をマスターすることが必要です。

海外技術指導の機会を得るためには、JICA、FIDIC等に登録し、人との出会いや、人脈を大切にすることです。また海外技術指導の成功の道は、早く現地の人に馴染み、とけ込むことです。

＜支部・センター 行事報告 おわり＞

Ⅱ 支部・センター委員会・部会だより

◇ 郷・総務委員会(重富委員長)

日時：平成4年1月20日(月)13:30～15:30

場所：支部事務室

出席：水上副支部長、重富委員長他3名

議事：「技術士だより」第11号編集会議

・全体記事の計画

・原稿依頼者及び内容の検討

・依頼状作成と依頼準備

◇ 郷・事業委員会(笠木委員長)

☆ 平成3年度忘年パーティ並びに研修会

日時：平成3年12月7日(土)13:30～19:30

場所：リコホテル博多

(1) 研修会 13:30～16:30 出席者：55名

講師 鶴川 義明先生

「河川情報システムについて」

同 安武 敏也先生

「シルクロードを旅して」

同 佐土原 裕紀先生

前九州電力㈱社員研修所長の砂土原先生は「人間関係を考える」と題し、若者や家庭の人間関係について触れ、一同感銘を受けた。

(2) 忘年パーティ 16:50～19:30

(総務委員会と共催) 出席者：52名

盛会のうちに定刻、会の発展と会員の健勝を祈念して、「万歳三唱」で閉会した。

◇ 郷・試験委員会(政野委員長)

平成3年度技術士第一次及び第二次試験の合格者発表が行われました。福岡会場での受験者並びに全国の合格率は次の通りでした。

1. 技術士第一次試験(3年12月20日発表)

(受験状況)	(福岡)	(全国)
受験申込者数	448 名	3,901 名
受験者数	296 名	2,465 名
合格者数	99 名	804 名
対申込者合格率	21.1 %	20.6 %
対受験者合格率	33.4 %	32.6 %

2. 技術士第二次試験(4年1月31日発表)

(受験状況)	(福岡)	(全国)
受験申込者数	1,422 名	14,852 名
筆記試験受験者数	771 名	8,752 名
筆記試験合格者数	147 名	1,604 名
口頭試験受験者数	147 名	1,603 名
口頭試験合格者数	142 名	1,469 名
対受験申込者合格率	10.0 %	9.9 %
対筆記試験合格者	18.4 %	16.8 %
口頭試験合格率	96.6 %	91.6 %

上記のとおり、一次、二次試験とも福岡会場の合格率が、全国平均を上回る好成績であったことをご報告いたします。(つづく)

＜委員会・部会だより つづき＞
参考までに、年代別合格者数は次表のとおりでした。（全国 1,469 名の内訳）

年代才	20	30	40	50	60	70
合格名	8	611	607	211	31	1

平均年齢は 42才 であります。

◇部会報告

1. 合同見学会

第1～第6部会共催（第6部会計画）

見学先：佐賀県鳥栖市宿町

工業技術院九州工業試験所

日時：平成4年1月23日（木）13:30～15:30

参加者：芳賀第6部会長以下6名

（詳細 11ページ、見学報告参照）

2. 第1部会・第3部会 会合開催

日時：平成4年2月27日（水）13:00～17:00

場所：北九州市 戸畑中央公民館3階

議題：

(1) レジンコンクリート関連技術紹介

講師 里 一男

(2) マルチアーク関連技術 // 鍛冶 重一氏

(3) 公共機関・業界からの

要望案件の参画者募集 // 田島 積

3. 第2部会・第4部会合同技術研修講演会

日時：平成4年3月7日（土）15:00～

場所：福岡商工会議所

内容：

(1) 講演 15:00～17:00

① 「上水道の現況と今後の課題」

講師 弓削田 耕一先生

② 「手相見の日本語」「良い女とは」

ほか 講師 矢野 友厚先生

(2) 懇親会 17:00～18:00

＜委員会・部会だより おわり＞

☆大韓火薬学会日本建設現場研修団について

・会長 許 埴 氏ほか20名

・期間 4月19日～4月23日

現 場 見 学	日程	観 光
福岡ドーム球場 福岡地下鉄 日韓トンネル (鎮西町) 玄海原子力 発電所 九地建大分工事 事務所	20日 ～ 23日	ハウステンボス 雲仙普賢岳 (火山) 別府地獄巡り 高崎山 マリンパレス

✿ 声の広場 地区活性化だより -9- 佐賀地区

－地区活性化に想う－

佐賀地区代表幹事 向井 治孝

佐賀県技術士会は昭和46年に設立、爾来20年、協調と親睦を理念として過ごして参りました。会員は設立時にはわずか5名でしたが、現在は24名となりました。20年の歳月を経てわずか19名の増であります。これは如何に技術士の門が地方においては狭き門であるかを如実に示しています。然しこの数字は一見非常に少なくみえますが、県の規模・並びに性格的にみると先ず平均的な数ではないかと思われまふ。

会員を部門別にみますと、建設部門14名、農業部門5名、林業部門3名、電気・水道部門が各1名となっています。これは本県の産業分野の強弱に比例しています。

本県は87万のささやかな県で、従来から農業県として立県し、鉱工業面では、陶磁器などの在来工業を除けば、著しく立ち遅れの状態にありましたが、近年に至り電気機械器具、化学工業製品等の産業が伸びつつあり、この部門の技術士が多く要請される情勢になりつつあります。

一方建設部門についてみると、広範な軟弱地盤の佐賀平野、有明海の遠浅の泥海、北西地区の地滑り地帯、沈降海岸の様相を示す北面の海等々変化に富んだ地層地形を抱えているため、高度の技術を要する問題が多く優秀な専門の技術士が必要となります。

＜次ページにつづく＞

＜地区活性化だより－佐賀 つづき＞

このような情勢に対応して、本県技術士会は現在、官公署・大学・商工会・建設業界などに対する広報活動、会員間の情報交歓会、技術講演会、懇談会など多彩な活動を展開しています。また、(社)佐賀県測量設計業協会・(社)佐賀県地質調査業協会等関連団体との情報交換会を計画しています。

佐賀県土木部の宮崎部長は工学博士の学位保持者であり、次長以下幹部職員数名が技術士資格を持つ等、高度の技術観の持ち主が多く、そのため技術士制度についての関心も深く、心強く感じています。

先頃土木部内に組織されている佐賀県建設技術協会で技術士制度についての勉強会を催されたので、会から藤永技術士が参加し、県在職の技術士に協力し、大きな広報成果を得ております。この協会は全日本建設技術協会の地方組織として全国の都道府県に設立され全国の官公署に勤務する技術職員を正会員とし、毎年研修会、研究会、現地視察を行うとともに機関紙を発行するなどして、会員の技術ならびに地位の向上のため活動しています。私も永年特別会員として在籍していますが、このような団体に全国的に呼びかけていくことは、官公署の認識を深めるためにも、活性化の面からも非常に良いのではないのでしょうか。

私どもが活性化を進めていく時、色々な問題点に直面します。それは

(1) 技術士の起用・登用に際し評価の認識が二次官庁以下の官庁に薄いように感じられる。

(2) 技術士は一般社会の人々には殆どと云っていいくらい認識・評価がない。弁護士や会計士・税理士のように一般社会の人々との直接の関連がないからと思われる。

(3) 技術士会は部門が多いため、活動方針が総論では一致するが、各論では微妙な違いがあり、活動に難しい点が生まれる。

以上が技術士会全体の活性化を鈍化させている要因と思われる。

これらの対策として

(1) 技術士法を完全な職業法にする。

(2) 技術士登録制度を改正し合格者はすべて会員になるように義務付け、且つ各部門別の会を統合、連合会的性格のものとする。今後資格者の増加に伴い統制上からも必要となると思う。

等の方策を採ることが、活性化を促進し技術士会の一層の発展が期せられるものと思います。(筆者は九州技術開発㈱社長、(社)佐賀県測量設計業協会会長、(社)佐賀県地質調査業協会理事長)

＜地区活性化だより おわり＞

◆第4回九州地方公共団体職員と技術士との合同セミナー（記事 次ページ）





行事レポート ◇ 第4回九州地方公共団体職員と

技術士との合同セミナー実施報告

大分地区代表幹事・農業部門 今村 欣一

主催：(社)日本技術士会九州支部
後援：大分県・大分市・大分県工業団体連合会
日時及び内容：

☆セミナー 平成4年1月24日(金)

13:00～17:35

主題「地域振興の課題と技術士の役割」

テーマ：「地域振興と産業基盤の整備、
並びに地域産業の活性化対策」

☆懇親会 同 18:00～20:00

☆ゴルフコンペ 平成4年1月25日(土)

9:00～15:00

開催場所：大分東洋ホテル

(大分市田室町9-20)

以上の内容で開催致しましたが、厳寒の候にも抱わず多数ご出席戴き、盛会裡に終了できましたことを感謝致します。

◎出席状況は右記のとおりです。

大分大学名誉教授加藤知弘氏による「瓜生島の沈没」の講演は、歴史学者である加藤先生が中心となり、物理学、土木工学、地球物理学、海洋生態学など学問分野の違いを越えて、科学者の方が集まり調査研究をされたと言うことで、色々な面で大変ご苦労されたことと思われまし、今後私達にとりましても非常に参考になるものと思われました。

以上、皆様方の御協力により、予定通り無事大会を終了することができましたことを、心から御礼申し上げます。

①全体

区 分	参加数
来 賓	15
企 業	7
技 術 士	59
合 計	81名

②部門別(会員)

部 門	参加数
建 設	34
農 業	9
応用理学	7
電気電子	2
水 道	2
衛生工学	1
化 学	1
経営工学	1
機 械	1
事 務 局	1
合 計	59名

③地区別・セミナー及びゴルフ参加者

地 区	セミナ参加数	ゴルフ参加数
福 岡	14	4
北 九 州	5	—
佐 賀	—	—
長 崎	4	1
熊 本	4	—
宮 崎	6	4
鹿 児 島	4	—
大 分	22	6
企 業	—	1
合 計	59名	16名



行事レポート

◇ YCE福岡

発足記念パーティー報告

1. YCE福岡とは？

①名称：Young Consulting Engineers

②目的：それぞれの得意分野で「知恵を出しあう事によって、予想もしなかった「ひらめき」が生まれる様なYoung Con-

福岡・建設部門 前田 剛志
sulting Engineers の交流の場を作る。

③会員の構成：原則として昭和20年代以降生まれの、日本技術士会会員、又は九州地方技術士センター会員のうち、福岡地区に勤務又は在住する者。 <つづく>

福岡・建設部門 前田 剛志

1. YCE福岡とは？

- ①名称：Young Consulting Engineers
- ②目的：それぞれの得意分野で「知恵を出しあう事によって、予想もしなかった「ひらめき」が生まれる様なYoung Consulting Engineers の交流の場を作る。
- ③会員の構成：原則として昭和20年代以降生まれの、日本技術士会会員、又は九州地方技術士センター会員のうち、福岡地区に勤務又は在住する者。
- ④定例会：開催頻度は2～3ヶ月に1度、会費 3,000円程度とし、詳細は、今後会を重ね乍ら決定してゆく。

2. 発足記念パーティー概要

- ①日時・場所：平成4年1月18日(土)
博多リコホテル
- ②来賓及び出席者数：原井支部長、水上副支部長を招き、役30名が参集。
- ③内容：設立主旨の説明から会の名称、目的等について参加者の同意が得られ、とりあえず、5名の発起人がそのまま運営委員にスライドし、小川康夫氏が運営委員長を務めることに決定した。「YCE福岡」で何をやりたいかのブレンストーミングの、活発な意見交換に引き続き立食パーティーで盛り上がり散会した。

3. 感想

- ①ブレンストーミングにおいて、自発的な意見が出ない時は、出席者名簿から無作為に指名する予定であったが、さすがはYoung Consulting Engineers !! 一度の指名も必要とせず、活発な意見に終始した。
- ②風倒木、雲仙、地球環境、水資源、博多湾浄化等、多くの建設的意見が出されたが、その根底には、科学技術を通して、地域社会に貢献しようとする、かっきある精神がうかがわれた。
- ③高邁な精神に基づく、社会活動も霞を食し乍ら、これを行う事は相叶わず、ビジネスとして、どの様に成文させてゆくかが、今後の課題となろう。

4. これからの展開への私見

技術的社会活動として多くの意見が出たが何をやるか2～3本に絞り込むことは、なかなか難しそうである。多数決によっても我が分野に賛同しそうで、理論的、民主的な決定方法は見つかりそうにない……………。

全分野に亘る総合窓口として「YCE技術研究所」なるものを設立してはどうであろうか？ そしてYCE福岡のメンバー誰でもが提案する好きなものを、この窓口を通して、対外活動する。活動の対象(客先)はコンサルタント会社と競合する事となろうが、YECとしてはそれより上のStatusで行きたいものである。その時の陣容組みに関する人材情報を世間に卓越して取り仕切る人材情報センター：Civil Engineering Data Bank なるものがあつたとしたら、これはもう渡りに船、鬼に金棒といった所であろう「C.E.D.B.」は将来中小の設計事務所から、人材・専門分野・繁忙度等の情報を買ひ、これらを必要とする他の企業に売る可能性も有している。さらに空想を展開させるならば、官庁対象にC.E.Dataを販売する事も考えられ、公共事業関係の中核を担う存在となる可能性を秘めている。

今後のYECの展開として、

- (a) YEC技術研究所
 - (b) C.E.D.B.の設立等
- いかなかなものであろうか…………？

<以上で この項おわり>

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会員会社の紹介など、技術的なことは勿論一般的なことでも結構です。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。
(200字詰め原稿用紙2～3枚程度を目安にして下さい。 支部事務局宛)

行事レポート◇九州工業技術試験所械合同見学会報告

小松 栄一（北九州・経営工学部門）

大寒は過ぎたが肌寒い感じのする、去る1月23日（木）、支部第6部会が企画した各部会合同の見学会が開催された。

見学先は佐賀県鳥栖市の通産省工業技術院九州工業技術試験所で、芳賀第6部会長以下参加者6名（急用で欠席2名）は定刻午後1時に鳥栖駅に集合、早速現地に向かった。

試験所では甲斐田主任研究官に應對して戴いたが、その要点を私見を交えながら報告します。

1時20分から約10分間、加藤総務課長から30ページほどの立派なパンフレットの内容、特に組織や研究業務について説明があり、その後約30分、試験所の紹介とJ I T A（財日本産業技術振興協会）の紹介ビデオを見せてもらった。試験所職員の発明による国有特許がこのJ I T Aを通じて有料で実施権を許諾する仕組みを初めて知った次第です。

所内の見学はまず図書館から始まったが、別棟の広々とした施設と、国内外の膨大な学会誌・文献等2万4千冊の蔵書に一同驚嘆した。職員の紹介があれば貸し出しはできないが閲覧可能ということだった。二階はコンピューター室でかなりの大型機とみられるものがあつたが使用中ではなかった。

化学部のクロマトグラフ室では基礎化学課の安田課長から、キレート樹脂によるレアメタル回収技術について15分ほどだったか詳しい説明を受けた。

この技術はもともと南ア事情でレアメタル不足の危機感から、宮崎県の天然ガスを原料にレアメタルを回収しようということで研究されてきたが、現在のように順調に輸入されているので採算が合わないということだが、今後は廃棄物処理時に微小金属の回収などに活用されるそうである。

機械金属部の物性試験室で「高周波振動法によるセラミックスの機械加工」について、道津主任研究官より説明を受け、実際の加工を目の当たりにした。セラミックスのような難削材をかなりのスピードでしかも精度よく、

加工されるのに驚いた。40kHzまたは60kHzの超音波振動加工機械加工技術が確立されることによって、セラミックスの利用や活用がより促進されるものと思われる。このような技術の研究開発こそ、国の機関ならではの感じがした。僅か20分ほどの時間であったが、文献をもらったり、懇切丁寧な説明を受けたりして、大いに感謝した次第である。

最後に一番はずれにある実験工場を見学した。西村主任研究官からフッ素雲母の合成について約10分間説明があつた。寒々とした工場の中でひとり黙々と研究を続ける姿を思い浮かべながら話を聞き、大変なご苦労をされていることを感じた。

15時20分、最初の会議室に戻り小憩ののちタクシーに分乗して鳥栖駅に戻り、有意義な一日を終えて解散した。

今回の参加者は次のとおり。

（地区）	（部 門）	（氏 名）
福 岡	水道・衛生工学	安武 敏也
"	金 属	江崎 親教
"	機 械	田中 正人
"	経営工学	太田 能史
長 崎	"	芳賀 三千億
北九州	"	小松 栄一

九州工業技術試験所には、研究者71人（うち博士取得者36人）でその分野は化学32人、機械15人、鉱山5人、地学4人、金属・物理各3人、農学2人、建築1人、その他2人となっており、多くの基礎的基盤的研究や創造的研究を行っておられるようです。

今回の見学会は、参加者が上記のように多部門に渡っていることもあり、時間の関係もあって、全般的な、しかもごく一部の見学に留まった感があります。今後目的とする分野を絞って、定期的に見学すれば、国としての先端技術に接する機会が増え、成果が得られるのではと考えております。（以 上）

随想 ◇シルクロードを旅して

安武 敏也（福岡・水道・衛生工学部門）

シルクロードとは、唐の都「長安」（現在の西安）と古代ローマ帝国の首都「コンスタンチノープル」（現在のトルコのイスタンブール）を結ぶ延々東西7,000 kmに及ぶルートである。往時はこのルートを通して中国の絹織物や玉器などが西方のヨーロッパへ、西方からは銀製品や毛織物・ガラス器などが運ばれていた。昔は絹織物はヨーロッパ諸国の貴婦人達の垂涎おくあたわざる貴重なものであり、絹1grと金1grとも云われた。その故に生命の危険を冒してまでもこのシルクロードが開発されたのである。

シルクロードのうち私達日本人が観光をかねて訪れることができるものは、中国側の西安から蘭州、酒泉、敦煌を経て吐魯番（とるふん）、烏魯木齊（うるむち）に至るルートと、さらに天山南路を通して庫車（くしゃ）、阿久蘇（あくす）を経て喀什（かしか）に至るルートである。シルクロードというのは一本ではなく、大きく分けて天山山脈の北側を通る「天山北路」（現在未解放）と南側を通る「天山南路」とがあり、このうち天山南路はタクラマカン砂漠を挟んで「西域北道」と「西域南道」に別れていて、両者は喀什で一本に合流してパキスタン、イランを経てトルコのイスタンブールにつながっている。

私が初めてシルクロードを旅したのは、昭和54年に福岡から空路北京に飛び、さらに飛行機を乗り継いでウルムチに行き、ここから列車で吐魯番、敦煌、蘭州を経て西安に戻り飛行機で上海、福岡と飛ぶ8日間のルートであった。印象が強かったのはやはり敦煌であるが、ここには鉄道が入っていないので柳園駅で降りてバスの旅になる。柳園までは鉄道の夜行寝台列車であるが、途中たびたび砂嵐に見舞われて列車が止まり2時間の延着となった。同室の方の話では夜中に列車が覆るのではないかと恐ろしかったということである。寝台車は日本のブルトレと同じく上下2段の向き合わせ4人のコンパートメントになっており、私は上段に寝ていたが夜中にちょうどジェット機で飛んでいる時のようなゴーゴー

という風の音は夢うつつの記憶に残っている。翌朝目が覚めると室内は二重窓になっているにもかかわらず砂だらけであった。柳園で列車を降り、迎えのマイクロバスで敦煌へ約3時間の旅であったが、この時も途中で再三にわたって砂嵐に見舞われバスが立往生する羽目にあった。砂嵐は誠に凄まじいものであって、車のフロントは勿論のこと両サイドや後方も全く砂煙りの中で視界は完全にゼロとなる。バスは砂に埋まらないようにノロノロと盲運転で進むが、突然対向車が現れたりしてびっくりさせられた。同行者に一人ドクターがいたが彼は流石に用意よろしくゴーグルと大きな顔マスクに帽子で完全装備であった。ほうほうのていで敦煌の友誼賓館（ホテル）にたどり着き、チェックインを済ませて先ず飛び込んだのがバスルームで、一シャワーを浴びてようやく人心ついた次第である。もちろん体中パンツの中まで砂だらけであった。

翌朝はバスで待望の莫高窟（ばくこうくつ）の見物に出掛けたが、莫高窟には大小 492の石窟が残され各石窟は彩色壁画で飾られ2000体以上もの塑像が安置されていると云われている。一般に解放されているのはその内の極く一部分であり、しかも保存を図るためなのか内部に照明はなく、各自が用意した懐中電灯の明かりでやっと見物できる状態であった。他の団体客がこっそりと写真撮影したのが監視員（一般の平服で全く区別つかない）に見つかり、詰所に連行されて散々に油を搾られてフィルムは没収されたそうである。恐らく罰金もしっかり取られたに違いない。

シルクロードには往時ドイツ人をはじめヨーロッパ各国の探検家が入っているが、これらの探検家は数多くの遺跡から壁画や文書、彫像など目ぼしい秘宝を持ち帰り、それらの品々は各国の博物館に今でも展示されていると聞いている。誠に残念なことである。莫高窟でも多分にもれず主要な秘宝は持ち去られてしまったそうで、現在は重要な石窟には厳重に鍵が掛けられて立入禁止となっている。

<次ページに続く>

それでも私達が見た数々の壁画はその歴史的
背景は別として誠に感銘深く、特に「飛天」
と称する天女の舞う姿は優雅で印象深かった。
その模写したものを一枚購入して（大枚一万
五千元）我が家に飾っている次第である。

複雑さに思い当たったものである。しかしこの莫高窟は日中合同でその復元保存のための財団が設立され、近くその作業が始まると聞いているが、誠に喜ばしいことで、日本もこのような文化協力を大いに実行したいものである。

(13)

＜随想 つづき＞

当時は日中友好協会のメンバーでないと参加できなかった。私が参加したのは日本のJTB、西日本新聞社が共同で中国国際旅行社と組んで「友好訪中参観団」を編成し（窓口は日中友好協会）10日間の日程で開催されたツアーであった。イギリス船籍の「コーラルプリンセス号」という1万トンクラスの観光客船をチャーターして総勢250人余で博多港を出港し、上海に寄港してここをベースに近郊を見物してあるいた。当時は上海市の受け入れホテルが少なく、私達は船をホテル代わりに日帰りの旅行を繰返した。今でも覚えているのは、中国側の扱いは丁重そのものであって、我々が乗ったバス団の先頭にバトカーが先導するといった物々しきで、却って私達の方が恐縮してしまったものである。通訳にはそれぞれのバスに上海大学の日本語科の学生がついてくれたが、彼等の日本に対する関心は大したものので私の車に付いたのは王美麗という美人の女子大生であった。彼女とはそのあと文通があり、希望で夏目漱石全集を送ってあげたりしたものである。彼女はなかなか誇りも高く、私達がお互いに回しあっていた、

チョコレートやキャンデーはついに手にすることはなかった、友誼飯店で中国側の招宴があったが、飯店の周りを囲んだ鉄柵の外側は物見高い中国の人達で鈴なりであり、まるで我々は動物園の檻の中に囲われた猿軍団のような有様で苦笑させられた記憶がある。当時中国の人達の服装は男女とも例の青色の人民服一色であり、我々訪中団の、特にご婦人方のカラフルな服装が彼等の好奇心の的になったようである。上海動物園にも例のパンダの見物に行ったが、黒山の人だかりを警官が追っばらって我々を通してくれ、これでは却って反日感情を起すのではないかと心配したものである。

話が脇道にそれて申し訳なかったが、今回入ることができた天山南路12日間の旅、特に喀什は全く異境の地といってよかった。同じ中国人であり乍ら住民の80%はウイグル族で熱心なイスラム教徒であり、その顔立ちは漢民族とは全く異色の東トルコ系の彫りの深い端正な顔で、大多数の男性は美しい髭をたくわえている。肝心の喀什の話に入る前に紙数が尽きたが、機会があればもう少し話を進めてみたい。

＜随筆 おわり＞



随想



◇ 中小企業と技術士

江崎 親教（第3部会長・福岡・金属部門）

昭和30年代の在社当時より、福岡、佐賀両県の中小企業に対する技術巡回指導員講師の委嘱業務を任せられ、引き続き中小企業事業団の施策による、両県下の技術アドバイザーの業務委嘱を受け、また福岡市経済局中小企業指導所の巡回技術指導アドバイザーの委嘱、なお中小企業大学校直方校の開校と同時に、登録研修指導員講師に任せられ、過去述べ600数拾社にかかわってきた。この間長年に渡り、各種企業、各社それぞれの課題と取り組み、大中小さまざまな既知、未知の問題、難題とも出逢ったが、総合すれば指導の任に当たったということよりも、むしろ大変な自分の試練、勉強になったということが、いつわらざる現在の実感である。1,989年度のわが国の事業所統計によると、事業所数は682万に上り、うち中小企業は657万に達し、99.2%を占めている。そこで働く従業員数は3,950万人でまさに日本経済を支える原動力であり基盤

でもある。近時基盤安定のため、国も地方もさまざまな支援政策を打ち出しているが、結局は中小企業の自助努力に負うところが大きく、大方の中小企業経営者から出る言葉も「自分で知恵を出さなければ生き残れません」の一言である。このような場合、有能な人材に欠ける中小企業の経営者が自主的に専門的知識、経験、応用能力を持ち、厳正中立秘密を守り、柔軟な指導力を持つ技術士の活用と知恵を借りようと気付けば幸甚と思うが、残念ながら現在のところそのような経営者は少ないようである。この点まだまだ技術士の社会的存在価値、評価、PR不足を痛感させられる。中小企業経営者は、中小企業特有の力である「小回り性」「柔軟性」「迅速性」そして敏速な意思決定など大企業にない得意性をもっている。この企業体質をフルに生かして合理化、省力化投資、新規事業分野への進出、

＜次ページへつづく＞

＜随想-2 つづき＞

自社製品の開発など、考えられるあらゆる経営手法、手段を駆使して健全な発展を期すべきであり、なお中小企業の企業力を判断する基準は、技術力、開発力、情報力といった経営の実質的なパワーによって大きく左右される時代になっているので、過去及び目先の技術にとらわれることなく、長期展望に立った基礎技術と技術者の育成に努め、広く社会活動に貢献できる技術力を確立すべきである。それには自助努力のみに頼るだけでは不十分であり、情報を得て他の力と知恵を縦横に借りる必要がある。

今は多くの中小企業の中には今なお重要な経営管理手法としてのIE的管理技術の導入が遅れている企業も多く、ここにも技術士の活躍の場が多く残されているように思う。

世界の経済大国、物づくり技術の得意な技術大国にあって、その中核をなす技術士が、

今後21世紀に向け、国内中小企業の指導に限らず、地球上、九州という立地、地域条件からもアジア、中近東諸国への活躍貢献が期待されよう。

古い体験ではあるが、去る昭和36年8月滞在45日の期間西ドイツを中心に欧州7ヶ国の多くの企業を視察研修の機会を得たが、当時の欧州の企業では、人間尊重の企業理念が優先され、社員の資質の向上のための企業内教育に多くの時間と資金が投入され、また自社の持つ伝統に自信とプライドを持ち、それぞれ独自の中核技術を持っていることに気づき、大きな感銘を受けたものである。

今後大国としての世界の信頼を得るためにも、また国際化、ボーダーレス時代を生き抜くためにも、わが国の企業はこれら欧州の経営哲学を学ぶ姿勢が必要ではあるまいか。

＜ 随想 おわり ＞

新技術紹介

福岡ドーム

和田 義昭
(福岡・衛生工学/
熊本中工務店)

今では建築関係者ではつとに、その名前を知られる福岡市百道地区。その広大な敷地の中で急ピッチで建設が進められているのが福岡ドームである。今回は当ドームで採用されている先進技術の概要を紹介する。

福岡ドームは開閉式ドーム球場としては日本初、世界では2番目になる施設である。

ドームの直径は222m、延べ面積178,988m²、収容人員約4万人で東京ドームよりひとまわり大きい。

当プロジェクトは設計期間7ヶ月、工期は24ヶ月というタイトなスケジュールの中で竹中工務店と前田建設の共同企業体(設計施工)で着々と進められている。次に当施設の特徴の概要を列記する。

①屋根は割球型鉄骨造ラメラトラス構造(総重量1万t)と呼ばれるもので3分割され1枚は固定、2枚の屋根がコンピュータ制御で旋回(開閉)される。開閉に必要な時間は20分で、全開時の開口率は60%となる。また、屋根材はチタンを採用し保守を容易にしている。

②光環境制御：閉鎖時は人口照明で行い、開放時は自然採光と人口照明を併用し、コンピュータによって最適な光の制御を行う。

③音響制御：大空間建築の場合は残響時間が最も問題となる。設計に際しては竹中工務店が開発した音響シミュレーションシステム「ストラディア」を活用し、東京ドームと同等の性能を目指している。

④空調制御：熱源は地域熱供給会社より冷温水を引込む。アリーナ内の空調方式の特色は、省エネの観点からスタンドの8ヶ所に循環ファンを取付け旋回流を発生させる。この結果気流による体感温度が下り、室内の温度を2～3℃高めに設定し省エネが可能となる。

＜新技術紹介 おわり＞

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会員会社の紹介など、技術的なことは勿論一般的なことでも結構です。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。

(200字詰め原稿用紙2～3枚程度を目安にして下さい。 支部事務局宛)



会員ニュース



☆(社)日本技術士会(九州支部)入退会

(区分) (地区) (氏名) (機軸門)

入会	福岡	渋谷 保男	建設
"	北九州	園田 豊實	水道
"	"	相馬 昭夫	経営工学
"	佐賀	内山 順治	林業
退会	熊本	池内 巖	林業
"	長崎	野村 幸平	応用理学
"	熊本	佐藤 康敏	農業
"	福岡	糸乗 貞喜	建設

☆九州地方技術士センター入・退会

(区分) (地区) (氏名) (機軸門)

入会	宮崎	土井 富雄	建設
"	"	城ヶ崎勝美	"
"	福岡	西山 紀光	衛生工学
"	"	増田直一郎	建設
"	"	梁木 英寿	"
"	鹿児島	小山 徹	農業
"	"	森原 稠	建設
"	宮崎	亀澤 宏明	"
"	佐賀	内山 順治	林業
"	北九州	丸田 賢二	金属
"	福岡	納富希志夫	建設
"	"	松雪 清人	応用理学
"	"	松本 仁	建設

入会	福岡	藤田 栄三	建設
"	"	永本 鍾	"
"	中四国	吉岡 淳	船舶
退会	中四国	渡壁 正	経営工学
"	長崎	丸山誠一郎	建設
"	宮崎	山口 耕司	"
"	北九州	松本喜代孝	"

—受付順、敬称略—

☆会員勤務先(住所)および連絡先変更

1. 松川 浩一 (応用理学)
連絡先 〒880 宮崎市桜ヶ丘町3-17-1
TEL (0985)47-4958

2. 清水 透 (建設)
連絡先 〒870 大分市萩原3-10-5
プラザ7岡玉405
< 10ページ につづく >

☆3月号

- ・技術士第二次試験合格者発表
- ・提言 高齢化に向かう技術士
／黒瀬 正行
- ・私の技術士業務
疑問との出会い
／清水 巖
- ・研修のページ
湿式空気調和機の見直しについて
／増喜 博文

◇会誌"技術士"最近号の主要目次◇

☆'92・1月号

- ・技術士試験制度の改善について
- ・私の技術士業務
異業種交流から融合化への事例研究
／新庄 秀光
- 志いよいよ高く
／和田 忠太
- ・研修のページ
ポリマープロセッシング／高島 直一

☆2月号

- ・技術士第一次試験合格者発表
- ・提言 会員増強とは
／小川 和夫
- ・私の技術士業務
技術士コンサルタントの世界
／青葉 堯



編集後記



矢野先生の巻頭言、この頃の新聞記事で
"大西洋へ核廃棄物投棄 旧ソ連時代"など
を見て、いつ、ツケがと…恐ろしくなる。
"技術士だより"も記事が多くなって、
せっかくの投稿にお休みを願うことに……
申し訳なく、ひたすら申し訳なく、ご無礼、
平にご容赦願います。(小)

発行：(社)日本技術士会・九州支部
九州地方技術士センター
〒810 福岡市中央区大名1丁目
12-61 新天ビル402
☎(092)771-9534
編集：九州支部・総務委員会